

アルゴリズムとデータ構造

基数探索（その1）

演習1（必須課題）

- 離散探索木について， searchR関数を参考にして， insertR関数をST_DST.cに実装し， 動作確認をせよ． 実行方法は次ページを参照せよ．
- Moodleより入手できるプログラム.
 - ItemD.c, ItemD.h, ST.h, STtestD.c , ST_DST.c

この課題は提出不要

コンパイル/実行

ランダムな5個の要素
を挿入し, 表示せよ

```
$ gcc -o STtestD STtestD.c ItemD.c ST_DST.c
$ ./STtestD 5 1
...
$
```

演習2（必須課題）

- プログラムを実行して，トライの動作を確認せよ．実行方法は次ページを参照せよ.
 - Moodleより入手できるプログラム.
 - ItemD.c, ItemD.h, ST.h, STtestD.c, ST_trie.c
 - トライでは「0」と表示がある節点は，内部節点で葉でないものを表している(葉とは内部節点で，その子がすべて外部節点となるもの)
 - トライでは「**distinct keys**」に「葉」となる節点の個数を表示している
 - トライでは内部道長と外部道長は，単に「-1」と表示している

この課題は提出不要

コンパイル/実行

ランダムな5個の要素
を挿入し, 表示せよ

```
$ gcc -o STtestD STtestD.c ItemD.c ST_trie.c
```

```
$ ./STtestD 5 1
```

```
1089 0 6416 0 0 0 38978 0 0 83025 0 88779 0 0
```

```
...
```

```
5 keys 5 distinct keys
```

葉

葉でない内部節点

葉の数